



難波っ子

令和5年度11月号
尼崎市立難波小学校
校長 難波佳代子

体験学習を通して心豊かな子どもたちに

5年生が、4年ぶりに10月23日～27日に4泊5日の自然学校に行きました。

自然学校とは、「心豊かな子どもの育成のために」4泊5日兵庫県が独自で行っている教育活動です。兵庫五国の但馬地方、美方郡香美町小代に美方高原自然の家「とちのき村」があります。標高750mに位置し、冬は豪雪地帯でもある大自然の中の施設です。

今年度は5日間天候にも恵まれ、全てのプログラムを行うことができました。1日目、2時間半の登山は大変でしたが、冷たい湧き水に触れる・山頂の澄んだ空気を吸う・雄大な景色見るなど、自然の厳しさと偉大さを五感で感じていました。疲れているはずなのですが、なかなか寝付けなかったり、また早く目が覚めてしまったりと、初日は友達との宿泊に慣れない児童もいました。2日目は、ツリーイングと焼き板。自然の中にお邪魔してのツリーイングは、なかなかできない体験です。自然を傷つけずに体験学習ができるよう現地の職員の方の準備や努力がうかがえました。子どもたちは、スタッフの方の説明や声掛けをよく聞いて、意欲的に取り組んでいました。何本も登る児童もいて、今まで体験したことがない高さでの景色が開け、頬に当たるさわやかな風を感じ自然の素晴らしさに触れました。夜は施設の屋上での星空観察と天体望遠鏡での土星の観察。土星のリングが絵にかいたようにはっきりと見えて壮大な宇宙が身近に感じられ、興味を持っていました。3日目は、体育館で公式雪合戦。午前中はルール説明と練習、午後はトーナメント戦を行いました。各チームで作戦会議を行って、いざ決戦。チームごとに一人一人の長所を生かして作戦を立てたので、チームの特徴が出て、やっている人も応援している人も全員で盛り上がりました。勝って喜ぶ笑顔以上に負けて流す悔し涙とそれを励ます仲間の優しさに子どもたちの純粋な心が現れ、胸が熱くなりました。一人一人の役割を決めて友達と力を合わせる事・集中して全力で取り組むことの楽しさを知ることができた活動でした。夜のナイトハイクでは、とちの木を見て、星空も見上げました。街灯のない漆黒の闇の中を歩くのは怖かったようですが、だんだん目が慣れてくると見えること・月明かりが明るいことを体感しました。4日目は野外炊飯とキャンプファイヤー。火の大切さを再確認し、キャンプファイヤーの炎を見ながら自然学校を振り返り、自分を見つめ直しました。最終日には、立杭焼きの陶芸体験をし、粘土で思い思いの作品を作りました。この5日間、五感を働かせて自然を感じ、豊かな心を育み、自然を守っていこうという意識付けになりました。また、友達との宿泊体験は「自分のことは自分です」「お互いを認め合い、協力する」「自分はどうか考え行動する」ことを身につけることができました。良い思い出を心の奥に持ち続けるとともに未来への希望と生きる力につながっていくことを願っています。

このように体験学習や行事での子どもの成長は、そこに至るまでの学習・練習・準備・協力などが大切です。「過程が大事であり、どんなことにも誠実に一生懸命取り組む」「実

